

平成22年度研究所プロジェクト研究報告

中国農村経済の構造変化と労働市場
：「ルイス転換点」に関する日中比較研究

Structural changes in the Chinese rural economy and the labor market:
Comparative research of Japan and China on the Lewis turning point

中国農村経済の構造変化と労働市場：「ルイス転換点」に関する日中比較研究

Structural changes in the Chinese rural economy and the labor market : Comparative research of Japan and China on the Lewis turning point

研究代表者： 郝 仁平（経済学部教授，アジア文化研究所研究員）
研究分担者： 横川 伸（経済学部教授，アジア文化研究所研究員）
続 三義（経済学部教授，アジア文化研究所研究員）
滝澤美帆（経済学部講師，アジア文化研究所研究員）
南 亮進（一橋大学名誉教授，アジア文化研究所客員研究員）
阿部照男（東洋大学名誉教授，アジア文化研究所客員研究員）
飯塚勝重（東洋大学校友会，アジア文化研究所客員研究員）

研究期間：平成21年4月1日～平成24年3月31日

22年度の研究経過および研究活動：

本研究は、国内外の先行研究を踏まえ、中国農村経済構造と労働市場の変化を多角的に総合的に捉え、現地調査のデータに基づいて実証分析するものである。さらにかつて日本の高度成長時期の経験と比較しながら、開発経済学の分野で有名な「アーサー・ルイス転換点」理論が中国経済に当てはまるかどうかについて検証しようとするものである。

中国の高度成長に従い、一部の地域では「転換点」のような現象、いわゆる「民工荒」（出稼ぎ労働者の人手不足）が現れてきた。この現象に対してまったく異なる2つの見解が存在する。1つは中国ではすでに転換点を迎えており、すなわち労働過剰経済から労働不足経済へと変わりつつあると主張するが、他の1つは中国経済がまだまだ転換点を迎えておらず、現在の状況は一時的な現象に過ぎないと思われる。しかし、そこでの論議は充分なものではなく、本格的な研究はむしろこれからの課題である。この点で注意せねばならないのは、ルイスの二重構造論の正しい理解と適用であり、そのためには、日本をはじめとする東アジア諸国における転換点研究が大いに参考になるはずである。

22年度は当初の研究計画に基づいて各研究員が役割分担により個別に研究を進めるとともに、すでに転換点の通過した日本、韓国など東アジア諸国における転換点研究との比較研究を中心に、定例研究会開催および国際ワークショップを開催するなど研究活動を進めた。

① 定例研究会と共同研究会の開催

まず、中国農村経済に関する公式統計資料及び先行研究資料の収集、整理作業を行い、それに基づいて毎月定例研究会を開き、先行研究のサーベイ、中間結果の発表および情報交換を行った。また、東アジア労働市場研究会と共催で、研究メンバー以外の他機関研究者と計2回の共同研究会を本学で開催し、研究交流を図った。

② 国際ワークショップの開催

2010年7月18日～19日に、中国、韓国、台湾から4名の研究者を招き、アジア文化研究所22年度

第2回研究例会を兼ねて、本学において公開ワークショップ「転換点理論から見た東アジア労働市場の変貌」を開催した。学内および国内の研究機関から約50人が出席し、二日間にわたって活発な研究発表、討論および学術交流を行った（下記のプログラムを参照）

東洋大学アジア文化研究所22年度第2回研究例会・研究所プロジェクト 公開ワークショップ

「転換点理論から見た東アジア労働市場の変貌」

主催：東洋大学アジア文化研究所 共催：東アジア労働市場研究会

日時：2010年7月18日～19日

場所：東洋大学白山キャンパス3号館3301教室

プログラム

セッションⅠ 7月18日（日曜）13：00～18：00

コーディネータ：郝 仁平（東洋大学）

13：00～13：10 開催のご挨拶：高橋継男（アジア文化研究所所長）

13：10～14：40 報告①「日本経済の転換点」

報告者：南 亮進（東洋大学）

コメンテーター：穂本洋哉（東洋大学）

14：40～16：10 報告②「中国上海市における農民工のダイナミズム」

報告者：巖 善平（桃山学院大学）

コメンテーター：石塚浩美（産能短期大学）

16：10～16：30 コーヒー・ブレイク

16：30～18：00 報告③「A Discussion on the Lewisian Turning Point in Taiwan」

報告者：洪 嘉瑜（台湾東華大学）

コメンテーター：蔡 昉（中国社会科学院）

セッションⅡ：2010年7月19日（月曜）9：00～12：00

コーディネータ：蔡 昉（中国社会科学院）

9：00～10：30 報告①「インドネシアにおける労働分配率と過剰就業」

報告者：本台 進（神戸大学名誉教授）

コメンテーター：杜 進（拓殖大学）

10：30～12：00 ②「韓国の労働市場構造変化と政策的含意」

報告者：金 昌男（韓国・東亜大学校）

コメンテーター：牧野文夫（法政大学）

12：00～13：00 休憩（昼食）

セッションⅢ：7月19日（月曜）13：00～17：00

コーディネータ：牧野文夫（法政大学）

13：00～14：30 報告①「転換点時期の労働移動と所得不平等への影響」

報告者：都 陽・王 美艶（中国社会科学院）

コメンテーター：薛 進軍（名古屋大学）

14：30～16：00 ②「農家の労働供給行動と土地制度」

報告者：宝剣久俊（アジア経済研究所）・蘇群（南京農業大学）

コメンテーター：高田 誠（明海大学）

16：00～16：20 コーヒー・ブレイク

16：20～17：00 総括討論：①江崎光男（名古屋大学／大分大学・名誉教授）

②蔡 昉（中国社会科学院）